

第5章 書き方の形式 『点訳フォーラムより』

その1 本文の書き方

17.p149 挿入文の書き方

挿入文がいくつかあり、行頭二マスインデント処理をし、挿入文の前後は1行あけにしようと思います。ですがなかに見出しのすぐ後に挿入文という章があります。その場合も挿入文の前(つまり見出しの次の行)を1行あけにしてもいいのでしょうか。

【A】
見出しの次の行は、行あけしないルールになっていますので、見出しの直後に行頭二マス下げて書きだし、挿入文が終わったところで、1行あけにすることになります。
1行あいていて、行頭の二マス下げがなくなれば、本文に戻ったことが分かります。

一流の人は「続ける技術」を持っている

夢をつかむことというのは、一気にはできません。ちいさなことを積み重ねることで、いつの日か、信じられないような力を出せるようになっていきます。

いままでも自分がやってきたことを、しっかりと継続することが、イチローという選手
手の能力を引き出すためには、はずせないことです。

過去の積みかさねがどれだけ大事なものは、感じています。それがなければ、今の技術や精神は作られなかったのですから。

(びあ)夢をつかむ イチローのメッセージ

将棋の羽生善治さんも、こう書いています。

以前、私は、才能は瞬間のきらめきだと思っていて、しかし今は、十年とか二十年、三十年を同じ姿勢で、同じ情熱を傾けられることが才能だと思っている。

直感でどういふ手が浮かぶとか、ある手をぱっと切り捨てることのできるかどうか、確かに個人の能力に差はある。

しかし、そういうことより、継続できる情熱を持つ人のほうが、長い目で見てと伸びるのだ。

(角川online)『決断力』

私が司法試験の受験指図を始め、もう二十五年以上が経ちます。司法試験というのは、法律家、つまり弁護士、裁判官・検察官になるための国家試験です。二〇〇六年から試験制度が大きく変わったのですが、その直前の試験の合格率は三パーセント前後、合格者の平均年齢は約二十八歳、合格までの平均受験回数は五六回

見出しのあと、1行あいて、挿入文がある。

挿入文

見出しの次の行は、行あけしないルール